

おもてなしの心学ぶ

五輪見据え土湯小で講座

福島市の土湯小（伊藤勝彦校長）は13日、同校で筑波大客員教授で「おもてなし学」の講師を務める江上いずみさんを招き講座を開いた。子どもたちはあいさつの仕方やアイコンタクトの大切さを学び、おもてなしの心に理解を深めていた。

同校が指定されている2020年東京五輪・パラリンピック・ムーブメント事業の教育推進校としての取り組み。福島市では野球・ソフトボー

ル競技が開催されることを受け、海外から土湯温泉を訪れる観光客へのおもてなしに生かしてもらおうと開催した。同校の児童や近隣住民ら約40人が参加した。

江上さんは約30年にわたる日本航空の客室乗務員としての経験を交えながら「おもてなしとは相手に喜んでもらうために心を尽くすこと」と話し、子どもたちと共にお辞儀の仕方や英語でのあいさつの仕方を実践した。



江上さんとやりとりしながらおもてなしの心を学ぶ子どもたち